「ニセコのまちづくり現場からの報告」

Report from Niseko : It's community building and reforms

林　　知己

○司会

次、ニセコ町学校教育課長の林　知己様より、ニセコのまちづくりの現場からの報告ということでお話をいただきたいと思います。それでは、よろしくお願いします。

○林　知己（ニセコ町学校教育課長）

皆さんこんにちは。ただいま御紹介いただきましたニセコ町教育委員会の林です。このたびは、お招き頂き、皆さんとこのような形でお会いすることができまして、また私のつたない話ではございますが、私がお話しさせていただきます貴重な経験を与えられたことに対しまして、感謝申し上げます。ただ、町長の後に講演をするという私の立場、これは非常に厳しいものがございます。まちの担当者からは、町長は何を話しているかわからないし、本当かどうかわからないので、職員の立場からきちっと町長の話も聞きながら、まちの実態を話してきてくださいというのが最初頼まれた趣旨でございました。でも、本人を横にして言えると思いますか。この心優しい私がなかなか言えないと思います。そんな意味で、とてもかわいそうな立場にいる私を、皆さん優しい心と耳で、見て聞いてやっていただきたいというふうに思います。

私に求められているものは、ニセコ町での取り組みの評価と、逢坂町長に変わってからの職員の状況や関係というふうに言われております。これは、私がニセコ町で仕事を実践する中からその辺の部分もお話しできたらいいかなと思っております。何せ、これだけ多くの皆さんの前で話すのは、またこういう高い壇で話すのは初めてでございます。皆さんのためになるお話はできないかもしれませんけれども一生懸命頑張りますので、よろしくお願いいたします。

簡単に自己紹介いたしますと、逢坂町長同様、私もニセコ町で生まれて、ニセコ町で育っております。大学で4年間東京にいた以外は、ずっとニセコ町でございます。沖縄と同じようにおいしい空気のもと、またおいしい食べ物のもとで育っておりますので、こんな状況でございます。昨年の7月に、ニセコ町の役場で機構改革がございまして、そのときに管理職になってちょうど1年が経過しております。結構、忙しい日々ですが、後でもちょっとお話しいたしますが、子育て支援ですとか、ニセコ中学校の改修など、新しい取り組みを行っておりますので、同じ課の仲間と楽しく仕事をさせてもらっております。ただ、どうしてもやっぱり運動不足で、その疲れをお酒でいやしてしまうものですからなかなか疲れがとれない状況でございます。どうですか、皆さん。逢坂町長、お話うまいでしょう。私もほれぼれとして聞いておりますけれども。多分、私がお話しするともっと引き立つと思います。そんなわけで、私の話は余り期待しないでください。

早速ですが、町長は現場主義で、何せフットワークのよさでは、仕事上で大きな成果を上げています。私の中でも町長というものに対するイメージは、非常に変わりました。どちらかというと以前は、町長というのは、町長室にどっかりといて、町民や役場の職員もいろんな場面で、なかなか中に入って打ち合わせとか、そういうことが非常に少なかったんですね。でも今は、アポを入れると、ポイント、ポイントでいろんな打ち合わせができます。結構、いないことが多いのですけれども、いろんな場面で対応可能となっております。簡単な打ち合わせ、日程調整なんかはメールで常時できますし、「どうですか」と言えば、すぐ返事が返ってくるんですね。いつもパソコンを開いているんじゃないかっていうふうに思うぐらい、すぐ返ってきます。そういう部分では、いない部分も日程調整はすぐできるような状態になっております。町長になった当時は、ニセコ町に全然町長はいないんじゃないかとか、ニセコ町のことなんか考えてないんじゃないかとか、職員からは打ち合わせができないなんていうような不満もいろいろ出ていたんですけれども、ちゃんと日程調整したりすれば、ポイント、ポイントで可能なんですね。それと何と言っても、どこに行っていてもニセコ町で用務があれば必ず戻ってきて、ニセコ町できちっと仕事をしてからまた出かけるということで、その辺は公用車と私用車を分けながら朝早くから、夜遅くまで精力的なスケジュールをこなしている部分も見たときに、だれ

も文句を言う人はいなくなったというのが現状じゃないでしょうか。でも、やっぱり私から見ていてもちょっとスケジュールが混みすぎなんですね。若い若いといっても町長も45歳ですか。もう少し余裕を持っていただきたいですし、やっぱり体を壊さないのかと私も心配しているところです。先日もある職員が、町長も忙しい上でのちょいぼけなのか、「最近、会議も間違えて違うところへ行くんだよね」なんて言っていましたけれども、ちょっと暴露してしまいましたけれども、そんなことがあるようでございます。

先日、沖縄に来ることになってから、沖縄県の方からある質問がありました。それは、逢坂町長が北海道知事に出馬が取りざたされているときの情報として、逢坂町長がいなくなってもニセコ町はやっていけるんだということを証明したいというふうに発言したのは、私ではないかという質問がございました。ところが、私は当時管理職になるまで、組合の執行委員長をやっておりました。当時、執行委員長でしたので、逢坂町長に知事選出馬の要請に来た連合の会長ですとか、いろんな方ともお話もしましたし、マスコミからもいろいろ聞かれたりしましたので、発言には注意していたつもりですし、ただいろんなことを憶測で書かれたりはしていたんですけれども、そういうことは言っておりませんよと。ただ、当時、もし町長がいなくなっても、我々は町長が提唱して、職員も一緒につくり上げてきたそういう道だけは、きちっとやっていくんだよという気持ちはあったことは確かです。ですから、せっかく逢坂町長になって、ニセコ町のまちづくりがこういうスタンスで進んできたときに、私は町長が変わってもそういうルートでやっていこうという気持ちはきちっと持っておりました。その知事選のときですけれども、最終的に町長が知事選に出る、出ないっていう一番あぶらっこいときに、私は40日間東京に研修に行っていまして、職員からメールで情報がいっぱい入ってくるんですね。それを見ながら、私は高みの見物状態でしたけれども。職員もみんな大変だったみたいです。

さて、私の役場も以前は、ほかの役場と同じ、ほかの役場と言ったら失礼ですが、閉鎖的というか、昔の普通の役場でした。平成6年に逢坂町長が就任して、今までにない新しい仕組みをどんどんと出してきました。これには職員もびっくりです。今まで慣例に倣ってやってきた管理職を中心とした職員からどんどん不満が出てきます。ところが、そんなことにもめげず町長は組織改革、職員の意識改革に次々と

手を打ってきます。その職員の意識改革の中で、二つお話をさせていただきたいと思います。

まず一つは、職員研修の充実とまちづくり町民講座です。職員研修の充実でございますけれども、私のまちでは、役場では、町長の一貫とした方針でもありますけれども、職員研修に力を入れています。私もいろいろと研修に出させていただいて、町民の皆さん、町長、職員には大変感謝しております。元来、内気な性格で、なかなか人前で話せない私ですけれども、研修に行くことによって皆さんと情報交換をする。そして、いろいろ話し合いをする中から自分も発言してみようとか、自分の気持ちを述べてみようとか、そういうことがすごい楽しくなってくるんですね。そういうことが自然と自分の身についてきて、今回この講演会にお誘いを受けたときも「自分の気持ちは伝えることはできないかもしれないけれども、何かやってみよう、出てみよう」という気持ちがあるんですね。そんなことで職員の中には、何事にも積極的にチャレンジしていく人、そうじゃない人、ここに、私は絶対差はつくというふうに思っております。学び追及しようとする意欲、これは絶対大切ですね。新たなエネルギーや視点を、自分はどうやってとらえていくのか。その辺はやっぱり先に述べたように、町長は「職員は、役場に入る前何の研修も受けないで入ってきているので、役場に入ってからの訓練、研修が大切なんだ」ということをいつも言われます。当然そうです。私も昔は、学生時代は、自分から手を挙げて発言するような人間じゃありませんでした。ところが研修に行くことによって皆さんといろんなことを話し合いながら、どんどん自分の意見を言えるようになりました。そういう面では、研修というのは非常に大切だなというふうに私も思っております。

実は、私は、先週21日から23日も滋賀県の大津にあります研修所で、私が今担当しています「子育て支援のまちづくり」につきまして研修を受けてきました。沖縄からも３名の方がいらしていまして、与那原町の桑江さんですか、桑江さん、今日来ていますか。桑江さん、おります。いないかな。来ています、はい。桑江さんと同じ班になりまして、一緒にグループ討議をした仲間でございます。研修については、総務課の研修担当の方からいろんな研修の案内をメールで発信されてきます。それに対して、私はこれ行きたいというふうに手を挙げるんですけれども、やっぱり研修を受けようと意欲のある人、ない人は、やっぱりその辺でギャップが出てき

ているというのが、ちょっと私の町でも少し課題かなというふうに思っています。私は職員と話すとき、自分でこういう仕事をしたい、だからこういう研修を受けたいというふうに目的を持ってアピールしないと絶対だめだよというふうに言っております。ですが、最初からあきらめている職員が非常に多いんですね。私は５年ぐらい前に、東京にあります自治大学というところへ約３カ月間行かせていただきましたけれども、私も40歳を超えて、ちょうど何か衰えがきたかなというときに、自治大学は私にパワーを与えてくれた源だというふうに思っております。うちの役場の中でも職員と飲んだりするときに、ある技術畑の職員が、「俺は技術屋だから、どうせ自治大学なんか行かせてもらえないし、行けないんだ」って言うのですね。いつも飲んだとき、そうやって嘆いていたんですよ。そういうことじゃないんじゃない、技術屋、事務屋だけじゃなくて、自分が行きたいということをきちっとアピールすることによって行くことができるんじゃないっていうことをよく話ししていたことを覚えています。その職員、この４月に自治大学に行って、先月生き生きとして帰ってきました。

それと同じような話をもう一つ。昨年の１月から２月、私は、社会教育主事の資格を取るための講習に、東京へ40日間行っておりました。町長の考えは、生涯学習や社会教育は、教育委員会の職員がやればいいだけものじゃないよというのが持論でございます。我々のまちづくりそのものが社会教育の実践だいうことで、全然違う部署の職員が行くことがございます。３年ぐらい前でしょうか。これも技術系の女性ですけれども、はっきり言って保健師です。彼女に、その社会教育主事に行かないかという声がかかりました。彼女は、何で私がそんなのに行かなきゃならないの、私の仕事に何も関係ないんじゃないと、泣いて抵抗したというふうにも聞いております。しかし、彼女は行ってきて、非常に幅が広がりました。物の見方、考え方、行動の仕方、非常に広がりましたね。多分、これから自分が行っていく仕事の中でプラスになるんだと思います。実は彼女から、彼女が先に行っていて、次の年に私が行くことになりましたので、行く前にその研修のレクチャーをいろいろ受けました。そのときの彼女の言葉です。「とにかくいろんな人と交流して、たくさん情報をつかんでおいで」と、「ちょっとレポートとか大変だけれども、すごく楽しいから」っていうことで、すごい生き生きとしていましたね。その泣いた彼女が、

こういうことを言うのだなと私もびっくりいたしましたけれども。

そんなことで、何点か研修のお話もしましたけれども、学び続けようとする意欲は大切だというふうに思います。職員研修によって人材を育成していくという考え方が、私たちのまちにはございます。研修に行くことによって、うちの職員はどんどん何かをつかんでレベルアップしているというふうに思います。住民と共に考え、行動する職員づくり。我々は、それらを享受しながらまちづくりに邁進していかなければならないというふうに思っております。

続いて、「まちづくり町民講座」についてお話ししたいと思います。私のまちで行っているまちづくり町民講座は、役場の担当課長が講師となって、町民の皆さんに自分が担当している分野の現状や課題をお知らせして、後半は町民皆さんと一緒にその課題について論議する場でございます。この取り組みは平成８年度から実施しておりまして、現在80回を超えています。先週、私も担当でやってきましたけれども、83回目でした。大体、月１回のペースで行っております。町民講座開催の目的は、町民皆さんにまちの現状や実態について少しでも理解してもらうということと、まちの将来に向かっての課題を共有することを目指しております。また、町民皆さんと役場職員がともに学ぶ場ともいえます。さらに、自分の仕事について町民の皆さんにわかりやすく説明する力、対話する姿勢、意見をまとめる力、これはある面、管理職の職員研修の場としての役割も果たしております。

先週の15日ですか、私も管理職になって３回目ですか。まちづくり町民講座を担当してきましたけれども、参加していただいている町民の皆さんの意見ですとか、要望をうまく吸い上げてまとめる力、これは本当に難しいですよね。これは本当に私もトレーニングの場だというふうに思っております。やはり基本的には、一生懸命住民とコミュニケーションを図るというそういう意欲ですね。熱意が通じなければならないと思います。そして多くの皆さんに参加してもらい情報を共有してもらうことが必要だというふうに思っております。

視察を受けたときによくある質問としましては、住民参加といっても町民講座など、「同じ人ばかり来ているんじゃないの」ということをよく聞かれることがあります。ところが、これはまちづくりに興味を持っている住民の方は、大体出てくる方もおります。しかし、その興味の課題によって参加する人、参加する顔ぶれは大

きく違ってきております。先ほどお話ししました子育てのまちづくりについても70名ぐらい参加してもらったんですけれども、半分はお子さん連れのお父さん、お母さんです。半分は、今まで見たことないお年寄りの方ですとか、町外の方もおりました。ですから話題の興味によっては、全然参加している人は違うというのが実態でございます。それで、今年からその町民講座ですとか、いろいろな研修会とか、講座なんかにも子育て中のお父さん、お母さんもなるべく参加してほしいということで、私の課で取りまとめることにしまして託児室を設けるようにしております。今回も幼稚園と保育所の職員が、交代で託児所を担当しております。

続いて、ニセコ町の取り組みの中で、何点かお話をしたいと思います。まず、ファイリングシステムです。ニセコ町役場が取り入れております、いわゆる文書管理システムですけれども、このことについてちょっとお話ししたいと思います。ファイリングの基本的なルールとしては三点ございます。まず、文書を私物化しないで、組織のものとするということですね。これによって担当者がいなくても、だれでもその書類を取り出すことができるようなシステムになっております。それと2点目は、文書を取っておくことだけじゃなくて、廃棄するシステムであるということですね。これによって事務室が整理されまして、必要のない文書がなくなります。3点目は、文書を即座に利用できるシステムであるということです。文書を体系的に整理することによりまして、必要なときに短時間で取り出すことができるということです。たまに私も近隣の役場ですとか、道庁なんかに行くことがございますけれども、各種のロッカーや、ロッカーの中もそうですけれども。机の上とか横ですね、うず高く書類に囲まれて、何か囲まれなければ仕事ができないような人がいるみたいですけれども、はっきり言って私はああいうのを見たらもう最近は具合悪くなりますね。うちの役場も昔はそうだったんですけれども、書類を探すのに多くの時間がとられまして、担当している人がいないと書類がどこにあるかどうか全然わからない。もう個人情報も何も、へったくれもない状況ですね。多分、うちの職員は、もとの状態に戻りたいと思っている人は一人としていないと思います。確かに、このファイリングシステム継続していくことには、非常に神経を使います。それは今後継続した課題なんですけれども、やはりみんな毎日の仕事の中で、そのファイリングシステムという部分をきちっと自分の中に押さえていくということと、月1回

課ごとにファイリングの日というのを設けて、課内できちっとチェックをし合います。ちゃんとやっているかと相手の机を明けて、きちっとお互いチェックをするシステムをとっております。それらもありますし、より検索しやすい体系的な文書の配列を決めるとか、まだまだこれからみずから、職員同士確認し合いながら制度を高めていかなければならないと思っております。

レジュメも、一応こういうことをお話するということをつくったんですけれども、実は、昨日も各自治体の皆さんと勉強会を開いて、その中でもいろいろお話していまして、なるべく重ならないようにということは考えているんですけれども、ちょっと昨日とはまた違って、これだけ大人数の中で非常に私も緊張しております。少し重なることもありますけれども、続きまして職員間でのコミュニケーションという部分について、ちょっとお話ししたいと思います。

これは、いわゆる「ホウレンソウ」ということですね。報告・連絡・相談で、ホウレンソウですね。これは昔から、あらゆる職場でも言われていることですけれども、うちの町長も口からホウレンソウが生えてくるのじゃないかというぐらい、口酸っぱくホウレンソウ、ホウレンソウっていつも言っております。最近では、工事現場なんかでも安全第一だとか、整理整頓の横にホウレンソウって書いてあるんですね。やっぱり、このホウレンソウ、これは小さな役場でも、大きな役所でも仕事していく上での連携を図るという部分では、ホウレンソウは非常に必要なことだというふうに私も感じております。私もホウレンソウは仕事の基本というふうに考えて、いつも注意しておりますが、私の考えは、仕事の現場がぎくしゃくしていたらホウレンソウは絶対できないということです。そのためには、やっぱりホウレンソウが必要ですし、いい環境をつくることによって、おのずとホウレンソウが出来ていくんじゃないかというふうに思っております。

ホウレンソウの部分ですけれども、ニセコ町の役場では、朝の会と帰るときに、帰りの会ということで、課ごとに行っております。例えば、私の課で言えば、朝8時40分始業ですけれども、全員で立って挨拶をして、きょうのそれぞれの仕事の段取り、やることを一人一人話して確認をします。例えば私ですと、きょうは10時からどこどこで会議があります。大体、12時ごろに終わる予定ですと。それまでは、きのう残っていた何々の仕事について片づけたいと思います。昼から、1時半から

は、どこどこまちに出張します。帰りは大体3時ごろになると思います。その3時、帰ってから、きのう話題になっていた何々の件について打ち合わせをしましょう。この打ち合わせの書類を、だれだれさんよろしくお願いしますというようなことを朝の会で一人ずつ発表いたします。そのことによって、例えば私に電話が来ても、お客さんが来ても、林課長は何時から何時まで、何時ごろ帰る予定ですということがわかる形になります。それが一人一人声を出すことによって、本日の自分の仕事をきちっと確認をしてやっていこうということでございます。例えば帰りの会、5時10分ですね、うちの場合は。その時点でも全員立って、きょうの仕事の成果と残業はやるかどうかと、そういう部分を話しします。例えば私で言うと、きょうの夜は、今何々課から資料の提出を求められている部分について、あしたが締め切りになるのできょうは夜8時ごろまで、その資料づくりをしたいと思っています。その後は、だれだれさんに誘われているので飲みにいこうと思いますとか、そういうことをきちっとお話します。帰る方は、きょうは仕事が完結したので、早速帰りたいと思います。また、あしたの仕事に関しても、例えば、あしたは朝から出張であれば、明日は朝から出張ですので、役場には出ませんけれども、何時ごろ帰る予定ですということで、職員それぞれがホウレンソウを進めというか、コミュニケーションを図れる体制をとっております。

実は昨日、各自治体の方とお話をしている中で、宜野湾市の比嘉さんという方とお話ししていて、宜野湾市の方でも国民健康保険課ですか、朝の会を始めたようでして、成果が出てきているというふうに聞いております。何とその言葉ですけれども「モーニングショット」というふうに呼んでいるようでございます。これは、ちょっと私もいただきということで、私も帰ったら「モーニングショット」やりますというふうにちょっと課の中で言ったら、どういう答えが返ってくるのか楽しみでおります。

それとまた、昨日もちょっとお話しした中で、与那原町の皆さんとお話ししたときに、役場の電話の取り次ぎの仕方として、ワントラップサービスというのをこれから提案するというお話を伺いました。実は、私のまちの役場でも、町長と職員組合のやりとりの中で、役場にかかってくる電話の受け方について、結構もめた時期がございました。町長は、電話は職員全員がきちっととって、職員が全体のことを

きちっと見渡してわかっていなければだめだよという考えです。当時、職員組合は、交換手を置いて、きちっとつなぐような体制をとるべきだというふうに結構いろいろもめて、いまだに解決していないような状況なんですけれども、このワントラップサービスですか、この辺も私、また勉強させていただきたいなというふうに思っております。

職員とのコミュニケーションに戻りますが、やっぱり、コミュニケーションをとることによって、自分のかかわっている仕事に対して視野を広めたり、いろんな人の意見を聞くということが必要ではないかというふうに思います。そのためにも研修は必要ですし、職員間ですとか、町民とのコミュニケーションは大変必要になってくると思います。それで、地域とのコミュニケーションという部分ですけれども、私のまちも4,600人という小さなまちです。私もニセコ町で生まれ育って、住んでいる場所も同じ町内会です。同じ場所なので、いろいろと地域の人から頼まれることがたくさんございます。恐らく町長も同じだというふうに思いますけれども。例えば、地域のおじさん、おばさんですね、私が役場に行く途中、道路の縁で座って待っているんですね。税金払ってきてとか、何々払ってきてとか、朝か、夜電話きて、行くとき寄ってとか、直接頼みに来る方もおりますけれども。例えば、町内会では花見をやったり、婦人会では旅行をしたりとか、スポーツ大会に出たりとか、いろんなことをやっておりますけれども、こうした町内会ですとか、地域とのつながりを、私は大事にしていきたいというふうに思っております。ただ、こういった意識もだんだん希薄になってきているのは現実問題としてありまして、皆さんの地域ではいかがでしょうか。さっき、町長の話の中でも寄り合い的な制度というのが必要だよという話をされていましたけれども、まだまだ沖縄の中では、大きい都市はなくなってきているんでしょうけれども、沖縄はまだ町内会というか、地域によっての取り組みが残っているというふうにお聞きしておりますけれども、ただニセコ町では、今、町内会だけじゃなくて、いろいろな取り組みは町民が集まって行っていくようになっております。例えば、ニセコ花フェスタ事業というのがございまして、これは花づくりを媒体としながら地域のつながりですとか、産業へのつながりへと発展させていこうというふうな、住民みずからが町内会活動を強化して、人と人とのつながりを大切にして、取り組みを初めているところですけれども、多分こ

れからは、このように住民みずからでつくっていくような事業というか、取り組みがだんだんふえてくるのじゃないかなというふうに感じております。

続きまして、私が担当している仕事から何点かお話をしたいと思います。私の課で担当している事業の一つに、子供議会がございます。子供議会を行っている市町村は、多分全国にたくさんあるというふうに思います。私のまちは、平成13年度から始めまして、今年で４回目となります。比較的取り組みとしては新しい方ですけれども、なぜ子供議会を始めたかといいますと、平成12年度にニセコ町では「まちづくり基本条例」というものを制定しております。この「まちづくり基本条例」の第11条に、満20歳未満の町民のまちづくりに参加する権利をうたっております。ちょっと読み上げます。ニセコ町まちづくり基本条例の第11条です。「満20歳未満の青少年及び子供は、それぞれの年齢にふさわしいまちづくりに参加する権利を有する」というふうにあります。なぜ、あえて「まちづくり基本条例」にこの規定を設けたのか。大人は選挙権もありまして、当然まちづくりの参加権が憲法によって保障されております。ただし、子供たちには当然選挙権もありませんし、まちがあえて意見を求める場を積極的に設けていかなければ、まちづくりに参加する機会がなかなか得られない状況にございます。また、子供たちも町内で生活する一員でありますし、住民主体という視点で考えれば、当然まちづくりの参加主体になると思いますし、子供たちの意見もまちづくりを支える貴重な意見となるという、この規定を設けた理由の一つとなっております。

そこで、小中高校生がまちづくりに参加をする事業として「子供議会」と「子供まちづくり委員会」と「１日町長」というのをやっております。私の課で担当しています「子供議会」につきましては、目的は二つあります。一つは、議会の仕組みを理解してもらうということですね。それと、個々の意見をまちづくりに反映するということです。この２点を目的としてやっております。これからのニセコ町の未来を担う子供たちが、ニセコ町に対してどのような意見を持っているのか、そしてどういうまちにしたいのか、どういう希望を持っているのか、それら意見、要望を聞いて貴重な意見としまして、今後のまちづくりに参考としてみんなで検討していくことになっております。今年も８月５日、帰ったらすぐあるんですけれども、今年は再質問ですとか、もう一歩踏み込んで質問してみようとか、ちょっと今までと

変えようというふうに思っています。非常に楽しみですけれども、再質問等をすることによって答弁する管理職の力量が問われるところですね。これは、ちょっとおもしろいかなと思っております。

一般議会同様、子供議会に出た質問については、いろいろ同じように検討されます。実際、去年も年度途中で補正予算が組まれたり、新年度予算にその意見をもとにした予算審議がされたりしている現状でございます。それと子供議会終了後、子供たち二人からこんなまちに住みたいということで、町長に対して作文の朗読があります。これは、私も聞いていていつもジーンとくるんですけれども、それら作文を読む人、だれかやる人いますかと言ったら「はーい」と手を挙げて、みんな立候補なんですね。私、やりたいって立候補なんですよ。これには、私は驚きましたね。先ほど申し上げたとおり、私は子供のころから引っ込み思案で、それこそ教室でも余り手を挙げないような子だったものですから、このこと自体、今の子供ってすごいなというふうに思います。そこで、最近の作文の最後のくだり、二つほどちょっと用意してきたので読み上げたいと思います。いずれも中学生の作文です。これは実際、自分で作文を書いてきて町長の前で読み上げられます。その最後のくだりです。一つは「私の住みたいまちは、自然にあふれて、元気に育った野菜などを食べられ、そしてまちのみんなが健康で笑っていられるようなそんなまちに住みたいのです。このニセコ町も、いつかそんなまちになると思います」。もう一つです、「私は、都会にないものがたくさんあるこのまちが好きです。例えば、豊かな自然、おいしい水、きれいな空気など、これらはニセコ町が誇れるものであり、後世に残さなければいけないものだと思います」。今まで3回やっていて、すべての作文がこの自然環境を守り続けていきたいという部分入っているんです。また、一般質問の中にも、ニセコの人は緑があることが当たり前だというふうに感じているのじゃないかという指摘をしております。そして、その中で続けて、もう少し町民が緑と触れ合い、緑の大切さを町民がわかるような事業をすべきじゃないかというふうに子供議員から質問が出ております。我々も子供たちから教わることが非常に多いのも事実でございます。私たち町民は、この豊かな自然を含めて、このまちをいつでも、だれでも誇れるようなまちにしていかなければならないというふうに思っております。

実は、この子供議会を仕切る議長、副議長もすべて立候補です。ただ、一つ残念なのは、全員女の子なんですね。男の子はちょっと元気ないですね。だれか男の子いないって言っても下を向いちゃうんですね。実は、昨年子供議会を行ったときに、札幌の大学生がニセコ町の調査研究に入っておりました。「子供議会」にも３名の方が見てきておりまして、終了後、子供たちからいろんな意見を聞きたいということで懇談会を持ちました。ところがその大学生、何ていうんでしょうかね、子供に質問するような言い回しじゃないっていうか、何ていったらいいんでしょうかね。内容が的を得ていないというか、何か違うんですね。それで何かちょっともじもじしているんです。そういういろんなやり取りがあった中で、最後小学校６年生の女の子がある質問に対して、「子供議会を通してまちづくりに参加できることは、非常に有意義なことだと思います」っていうふうにバシッと答えちゃったんですね。最後、大学生の意見です。大変申しわけありませんがって、大学生の意見ですよ、大変申しわけありませんが、子供議会なんてとなめてかかっていました。子供たちの、しっかりとした質問だとか、作文だとか、こういう受け答えを聞いて、子供たちはこんなことまでできるのだなということをわかったし、非常に勉強になったという感想を述べておりました。あの場面に私いて、うちの子供たち大学生よりもしっかりしているなというふうに感じました。子供のころからそういう経験をするということ、ああいう場面に出て経験を積むということは、これは非常に有意義なことだというふうに思います。多分、大人になってからもこの経験は絶対生かせるものだというふうに私も思っております。

「子供議会」は、「まちづくり基本条例」に基づき始められたと説明いたしましたけれども、これも視察を受けたときによく出る質問ですが、「まちづくり基本条例」が制定されて何が変わったんですかということを、よく質問としてあります。ところが、これは何も変わっていないんですね。ニセコ町がこれまで取り組んできた情報共有ですとか、政策意思決定の手続などをただ明確にしただけで、そのまま住民の権利として保障しただけなんです。だから、新たなことを、いろんなことをちりばめたわけじゃないんですよ。ただ、条例や計画をつくる上でのスケジュールですとか、議会への出すべき条例案の公表などについてはその中で手続が定められておりますので、職員の仕事への姿勢が変わったというふうにそれは感じておりま

す。

続きまして、「子育て支援」はちょっと除きまして、「住民参加」の物づくりの中で、私がかかわった分として、現在も建築が進んでおりますけれども、ニセコ町に1カ所ありますニセコ中学校の改修の取り組みにつきまして、若干お話ししたいというふうに思います。これは、まず設計する会社を決める方法としてプロポーザル方式というのを採用いたしました。この方法は、設計会社に設計する方針ですとか、考え方、コンセプトをプレゼンテーションしてもらいまして、今後一緒に考えていく業者を選定する方式です。この方式により選ばれた業者と、大学生もボランティアとして入ってもらいながら小学生、中学生、地域の方々、先生方、それぞれとワークショップ方式で検討会を持ちました。大体3回ぐらいずつ持ちました。地域の方も、中学校を一般開放で使うという学校としての面もありますし、当然小学生や、先生方からもいろんな意見が出されてきました。それをもとにしまして、住民からなります検討委員会でもみまして、最終的に決めて図面づくりをしていったわけですけれども、最終的には最後の部分では、それぞれ担当する先生方ですね、例えば理科室だとか、保健室など、やっぱり普通の教室と違うものですから、最後は先生方と詰めの攻防をいたしました。でも、いろいろ話し合いをする中で、「わかった。この部分は我慢するけれども、これだけはこうして」とか、実際先生方も、それぞれ担当する先生方と我々と設計会社と一緒に入って、納得するまでお話をしました。ですから、ある面きちっと納得して図面づくりをできたかというふうに思っています。当然、改修ですから改築じゃないので、キャパは決まっています。その中でのやり取りですから、その中でやっぱりお互い我慢するところは我慢する、こうしたいところはこうしたい、それを聞きながら最終的に決めていきましたので、そういう面では時間はかかるし、いろいろな会合を持たなければならないので大変ですけれども。最終的に図面が完成して、2年間の工事ですので、来年の3月に完成いたしますけれども、完成に向けて工事は進んでいますのでほっとしていますけれども、最後の詰めをしていかなければならないというふうに思っております。

今、お話ししました中学校の検討会議もそうですけれども、また今、「子育て支援」の関係でも住民の皆さんからの検討会議を開いております。子育て支援の会議については、別名「ニコニコ会議」と言いまして、ニセコの「ニ」と子供の「コ」

を合わせて「ニコニコ会議」ということで、ニコニコ笑って子育てをしていけるようなまちをつくろうという意味で、「ニコニコ会議」というふうに設けております。いずれも町民から公募によりまして検討委員を募集しております。　これも視察の際によく聞かれることですけれども、各種委員会ですとか、そういう検討委員会ですが、公募は自主的な応募があるのかという質問をよくされます。これは委員会の性質で参加の有無というのは非常に違ってきております。黙っていても来るところもありますし、公募をかけてもゼロのところもあります。参加者についても同じ人ばかりじゃなくて、それぞれの興味のある部分で公募に応募される方は違ってきているという部分があると思います。

それで、今までいろいろとお話ししてきましたが、そうは言っても私のまち、すべたがうまくいっているわけではございません。4,600人という小さなまちでも、町民すべてがニセコ町のまちづくりに対して同じ意識でいるかといえば、そういう訳じゃありません。懇談や、講座に出てこない方もおりますし、また情報が届かない方もおります。情報を発信してもやっぱり情報をつかまない人がたくさんおります。そういう中で、今後どうしていくかというのが課題ですけれども、例えば、私が今担当している子育て支援という部分では、去年から幼稚園の開放事業というのを月3回始めました。今年からは、保育所の開放事業も始めましたけれども。非常に参加される方が多くて逆にスペースが狭くて困っているような状況ですけれども。ただ参加してくれるという方は、やっぱり市街地の方が多いんですね。どうしてもニセコ町は面積的にある程度大きなまちですので、ちょっと離れた地区の人は、やっぱり小さい子供を抱えて出かけて来るという部分がありまして、なかなか参加してくれない部分があるものですから、これも今年から「それじゃこっちから出かけよう」ということで、「出張親子遊び教室」というのを始めます。これは、いきなり行って集まってくださいといっても集まらないので、やっぱりもともと地域に入っている保健師さんと連携しまして、保健師さんの健康相談に、我々子育て支援を担当する職員も一緒に行って、その地域の子育て中のお母さんといろんな情報交換をしたり、コミュニケーションをとろうと思っております。

いずれにしましても、行政がいろんな参加メニューを用意して、住民に時間や興味があれば、いつでも参加できるような場を提供することが大事だというふうに考

えております。それと、各事業については、すべて行政がおぜん立てするんじゃなくて、地域や町民による自発的な活動に対して行政が支援していくというか、手助けをしていく形にしていけるようにしなければならないと思いますけれども、今後、そういう住民参加という形では、まだまだ取り組みとしてはいろんなことができるのかなと考えております。

次に、職員の勤務状態なんですけれども。逢坂町長になってから仕事が忙しくなったと感じている職員は、実際多いと思います。ただ、これは逢坂町長に変わっただけじゃなくて、いわゆるこれは地方分権の流れの中から仕事量がふえている部分というものも原因としてあります。ただし、これはニセコ町の役場職員として、町民の皆さんのためにやらなければならないことをやっているわけですから。昨年も機構改革をしたときに職員でプロジェクトチームを組みまして、短期間でうちの機構はこういうふうにすべきだと提案いたしました。ただ、まだこのプロジェクトは継続しておりますので、その年々の状況ですとか、場面に合う機構改革は必要と考えておりますので、今後ともプロジェクトと職員、そして町長と一緒に考えていこうと思っております。

町長と職員の関係ですが、これはやっぱり人と人のつき合いですから、全員が仲良しというわけにはいきません。また、仲良しであればいいという部分でもいけないと思っております。ただ、同じ目的に向かって仕事をする以上、基本的なニセコ町のまちづくりに対する方向に向かって職員全員が努力すべきですし、実際努力の仕方には違いはありますけれども、全職員責任を持って仕事をしているところでございます。今後は、さらに自分の仕事に対して責任を持って日常の仕事ですとか、実践の中から自分をこれからどうやって高めていくのか、その辺が必要になるかというふうに思います。

レジュメのまとめの方に入りたいと思いますけれども、まちではいろんな情報をわかりやすい情報にして、町民の皆さんに提供して理解してもらうということ。その情報をもとにまちづくりに参加してもらうことが大切でございます。情報の共有化を進めなければお互い相手のことも理解できないばかりか、誤解を生じたり、険悪な関係になることもあります。私たち一人一人がまちの課題について考え、論議をして納得しながらまちづくりを進めていくことが大事だと思っております。今で

は、我々職員もその辺から、何かやるときにその辺から入りますので、職員としては当たり前のことになっているんですけれども、そういうレールを地道につくり上げてきたのは、逢坂町長の一貫した情報共有の考え方に外ならないと思っております。

最後に、私の仕事のスタンスという部分ですけれども。私たち職員はだれに雇われて、だれのために仕事をしているかという部分ですね。これは、町民に雇われて、まちづくりスタッフとして仕事する以上、別に何も考えること無いと言ったら変ですけれども、町民に雇われてまちづくりのスタッフとして働く以上、進むべき道というのはおのずと決まるというふうに思います。ですからこれは、考えれば大変シンプルなことだと思っております。職員間の中でも情報の共有とコミュニケーションを図ることが、よい仕事をする上での第一と私は考えております。そして、おのずと「ホウレンソウ」ができるような仕事場の環境づくりをすることが必要ですし、私も楽しく、有意義に仕事ができると思っております。

それと、これは私の考えですけれども。私の仕事で詰まったときの考え方に、「何とかなるさ」があります。一般的に「何とかなるさ」っていうのは無責任な考え方に思われますけれども、私の中の「何とかなるさ」っていうのは、何というかな、考え過ぎないというか、苦しまないというか、柔軟に仕事にチャレンジしていこうというスタンスを私は持っております。「何とかなるさ」っていうふうに思ったときには、ある程度自分の中では次の仕事の段取りをきちっとつけて、「よし、あしたはこうやっていこう」って決めて、「何とかなるさ。さ、飲みに行こう」っていうような感じですね。そういう「何とかなるさ」を、うまい方法で私は使っているつもりです。昨日も南風原町の前城さんを初め、皆さんと勉強会をして、その後交流会をして熱気のあるものになりましたけれども。北海道と沖縄、北と南に離れておりますけれども、何か親近感がありますね。何か北と南、本州、四国、九州、中央には負けないぞ。地域から変えていくぞという気持ちで、今後もお互い頑張ろうかなと私は思っております。そんなわけで、きょうもおいしい泡盛でも飲みますか。

普段、私が感じていることを、ただだらだらと話させていただきました。取りとめの無い状況となりましたけれども、基本的に私は、ニセコ町、北海道、家族を大

好きです。今後とも、皆さんとこういう機会ができますことを祈ってございます。これで、私の話を閉じさせていただきたいと思います。皆さん、御清聴ありがとうございました。

○司会

林課長、ありがとうございました。

それでは、ここでもう一度10分程度休憩を挟んで、15分より質疑応答の時間をシンポジウム形式で始めたいと思います。その質問用紙に御記入いただいた方は、前に黄色い箱がありますので、ぜひここにお持ちください。